

科目名	現代マーケティング特論／Topics on Modern Marketing Theory
担当教員	鈴木 和宏(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 現代商学教育研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

【目的】

この授業の目的は、受講者がマーケティング論における近年の動向やトピックを知ること、学術分野としてのマーケティング論の各論を考察できるようになることです。そのために、マーケティング論でも特にブランド論や消費者行動論などの基礎的な文献を扱い、知識の習得を目指します。

【方法】

授業は輪読形式で行います。受講者は予習課題として指定された文献を精読し授業に参加します。授業では受講生のうち担当者が文献の内容を解説し、その後、全員でディスカッションを行います。また復習課題も随時出します。また、授業の後半ではマーケティング論に関する期末レポートの作成を行います。

授業はすべて日本語で行います。

達成目標 ／ Course Goals

以下の目標を設定します。

- ・マーケティング領域における主要なトピックを理解できる
- ・学術論文を精緻に読むことができる
- ・学術論文のレビューができる

授業内容 ／ Course contents

下記の内容は一例となります。受講者の専門やマーケティング論の知識により随時内容を変えます。

1. オリエンテーション：授業内容・進め方の説明、使用教材の決定
予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

2. ブランド論の展開

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

3. ブランド・エクイティ

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

4. 顧客ベースのブランド・エクイティ

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

5. ブランド価値

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

6. ブランド経験

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

7. サービス・ドミナントロジック

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

8. 関係性マーケティング

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

9. ブランド・ロイヤリティとブランド・コミットメント

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

10. ブランド・リレーションシップ

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

11. エンゲージメント

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

12. クチコミ

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

13. ブランド・コミュニティ

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

14. 期末レポートの構想発表

予習：レポートの構想と発表資料の作成 復習：フィードバックの反映

15. 期末レポートの進捗報告

予習：レポートの構想と発表資料の作成 復習：フィードバックの反映とレポートの執筆

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

授業内容に併記しましたのでそちらを参照してください。

使用教材 ／ Teaching materials

受講者の関心やマーケティング論に関する知識レベルにより使用教材を随時選定します。最初の授業で決定します。書籍と論文、両方を扱います。

成績評価の方法 ／ Grading

下記の項目で評価します。ただし、課題の担当者になっているのにも関わらず無断欠席をした場合は、0点とします。

- ・授業への参加度（報告、ディスカッション）：60 点
- ・レポート：40 点

成績評価の基準 / Grading Criteria

以下の基準で評価します。

- ・秀（90～100 点）：現代におけるマーケティング論のトピックについて秀でた理解力及び応用力を有している
- ・優（80～89 点）：現代におけるマーケティング論のトピックについて優れた理解力及び応用力を有している
- ・良（70～79 点）：現代におけるマーケティング論のトピックについて良い理解力及び応用力を有している
- ・可（60～69 点）：現代におけるマーケティング論のトピックについて理解力及び応用力を有している
- ・不可（0～59 点）：現代におけるマーケティング論のトピックについて十分な理解力又は応用力を有していない

履修上の注意事項 / Remarks

- ・履修に当たってはマーケティング論に関する入門的な知識があることが望ましいです。ただし、全く知識がなくてもある程度の配慮はします。
- ・無断欠席は原則禁止とします。また事前課題を担当している場合は、できるだけ早く欠席の連絡をしてください。
- ・質問などは下記へお願いします。

kazu-suzuki@res.otaru-uc.ac.jp

科目名	現代国際マーケティング特論／International Marketing Strategy
担当教員	ブラート カロラス(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 現代商学教育研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 2
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

The study of international marketing is concerned with the challenges, opportunities and problems that corporations face in the context of the global economy. The course consists of student presentations and in-depth class discussion of key readings from the academic literature on international marketing and strategy.

達成目標 ／ Course Goals

Students will become familiar with the key theoretical concepts and underlying forces of the globalization of markets and the academic debate on the pros and cons of standardization of the international marketing mix. In the process they will improve their critical reading, evaluation, and discussion skills and will learn more about different types of research design and writing. In the process, they will learn how to apply these insights to the design, writing and publication strategy of their own research.

授業内容 ／ Course contents

1. Orientation
2. Standardization of international marketing (1)
3. Standardization of international marketing (2)
4. Global convergence
5. Global marketing strategy: customizing global marketing
6. Standardization of international marketing strategy: research hypotheses
7. Standardization of global marketing: critical perspectives
8. Standardization versus adaptation of advertising: Practitioner versus academic perspectives
9. National culture and international marketing
10. Global marketing strategy and performance

11. Marketing mix standardization vs adaptation: theoretical advancement
12. Culture and cross-national product diffusion
13. Cross-national consumer segmentation: empirical evidence
14. Standardization's impact on performance: empirical evidence (1)
15. Standardization's impact on performance: empirical evidence (2)

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

Before each session, all participants are required to read the assignments for class discussion. Every week one of the participants will be required to present the readings for that week using slides. The participant in charge of presenting should also prepare discussion points for the session. Each participant will be asked to critically and carefully read the key reading for that week and will be asked to prepare a written synopsis of the reading and find a number of flaws in the theoretical assumptions, logic, design, or methodology of the research or writing. After each session, each participant should make personal notes on how the reading may be discussed as part of a critical review of the literature which will be required for the final written assignment for the course.

使用教材 ／ Teaching materials

Readings will be announced before the start of the course and will be shared with participants in digital format via a shared cloud-storage folder.

成績評価の方法 ／ Grading

Quality of class participation: 25%
Presentations: 25%
Final report: 50%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

標語（評点） 評価基準
秀（100～90） 個々の科目について秀でた理解力及び応用力を有している
優（89～80） 個々の科目について優れた理解力及び応用力を有している
良（79～70） 個々の科目について良い理解力及び応用力を有している
可（69～60） 個々の科目について理解力及び応用力を有している
不可（59～0） 個々の科目について十分な理解力又は応用力を有していない

履修上の注意事項 ／ Remarks

Readings will be in English. Class discussion may be alternatively in English and/or in Japanese to accommodate the language ability of the participants. All class participants need to submit a final report in English or Japanese.

科目名	観光マーケティング特論／Tourism Marketing
担当教員	王 力勇(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 現代商学教育研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	王 力勇(1 号館 R440)
オフィスアワー	王 力勇(事前メールにてご連絡ください。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

この授業は、受講者が観光マーケティング論における最新の動向や重要なテーマをレビューし、学術分野としての観光マーケティング論を考察することを目的とします。

授業は観光マーケティング論における文献を輪読形式で行います。

受講者は予習課題として指定された文献を精読した上で授業に参加します。授業では担当者が文献の内容を解説し、その後、受講者全員でディスカッションを行います。また復習課題も随時出します。

また、受講者が議論のもとで、観光マーケティング論に関わる 1 つのテーマにフォーカスし、研究することも可能です。期末レポートとして、研究成果をまとめます。授業の後半ではマーケティング論に関する期末レポートの作成を行います。

なお、この授業は受講者の希望に合わせ英語で行うことも可能です。

The purpose of this course is to review and examine the latest advancements and important topics in tourism marketing studies as an academic discipline.

Students are expected to participate in class after carefully reading the literature assigned as preparation for the class. In class, the presenter should explain the contents of the literature, followed by a discussion among all students. Review assignments will be given as needed.

Students may also choose to focus on one topic related to tourism marketing studies and conduct research on it. The research results will be summarized as a final report.

達成目標 ／ Course Goals

以下の目標を設定します。

- ・観光マーケティング領域における主要なトピックを理解できる
- ・学術論文を精緻に読むことができる
- ・学術論文のレビューができる

授業内容 ／ Course contents

Week 1. Introduction to tourism marketing

Week 2 - 3 Tourism distribution channels, B2B channel relationships in tourism market

Week 4 - 6 Tourist motivation, behaviors, experiences

Week 7 - 9 Tourist interaction & co-creation / co-destruction

Week 10 - 12 Smart tourist experience, virtual tourism

Week 13 - 15 Destination marketing & management, tourism sustainability

上記の内容は受講者の関心に合わせて、随時変更することがあります。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

文献内容をしっかり理解した上で活発な議論ができるように、事前学修として、受講者は毎回の授業の前に

- ・該当文献の内容をしっかりと予習すること
- ・報告担当者はレジメを作成すること
- ・受講者全員は疑問点やディスカッション・ポイントを用意すること。

事後学修として、関連テーマの文献をさらに読んで、理解を深めること。

使用教材 ／ Teaching materials

受講者の関心や観光マーケティング論に関する知識レベルにより使用教材を随時選定します。最初の授業で決定します。英文の書籍と論文、両方を扱います。

成績評価の方法 ／ Grading

授業参加度（予習、質問、討論） 50 %

レジュメ作成と発表 30 %

レポート 20 %

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

以下の基準で評価します。

- ・秀（90～100 点）：観光マーケティング論のトピックについて秀でた理解力及び応用力を有している
- ・優（80～89 点）：観光マーケティング論のトピックについて優れた理解力及び応用力を有している
- ・良（70～79 点）：観光マーケティング論のトピックについて良い理解力及び応用力を有している
- ・可（60～69 点）：観光マーケティング論のトピックについて理解力及び応用力を有している
- ・不可（0～59 点）：観光マーケティング論のトピックについて十分な理解力又は応用力を有していない

履修上の注意事項 ／ Remarks

履修に当たってはマーケティング論に関する入門的な知識があることが望ましいです。

受講者数が少ない場合は、受講者の研究分野に合わせて授業内容を多少変更することも可能です。

日本語で講義を行う場合にも、英語文献が多く含まれます。

何かご不明な点がございましたら、メールにてご相談ください。(wangly-frank@res.otaru-uc.ac.jp)

科目名	現代経営組織特論／Organization Theory
担当教員	加賀田 和弘(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 組織マネジメント教育研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	月/Mon 3
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

授業目的：本講義では、テキストの輪読を通じて、経営組織論、特にミクロ組織論領域と言われる組織行動論の基本的な理論や概念を理解することを目的とする。またそれらを用いて、急速な環境変化や競争激化にある現代企業の成功・失敗要因や競争優位の源泉を、組織で働く人々のモチベーションやリーダーシップといった人間行動のメカニズムの観点から解明・分析する力を涵養していくことを副次的な目的とする。

授業の方法：組織行動論に関するテキストを輪読し、基本知識の習得を目指す。受講生は事前に指定された箇所を読み、レジュメを作成し、報告することが求められる講義では、報告内容に基づいた質疑応答、ディスカッションを行うことで知識の確認・定着を図る。

達成目標 ／ Course Goals

本講義での学習を通じて、組織を形成・協働させ、活性化するための手法と経営者・管理者の役割、今日の組織をめぐる経営管理・組織のあり方や課題について考察することを目的とする。

授業内容 ／ Course contents

授業内容（予定）は以下の通りである。

- ①オリエンテーション
- ②組織行動学とは何か
- ③個人の行動の基礎
- ④パーソナリティと感情
- ⑤動機づけの基本コンセプト
- ⑥動機づけ：コンセプトから応用へ
- ⑦個人の意思決定

- ⑧集団行動の基礎
- ⑨チームを理解する
- ⑩コミュニケーション
- ⑪リーダーシップと信頼の構築
- ⑫コンフリクトと交渉
- ⑬組織構造の基礎
- ⑭組織文化
- ⑮まとめと総括

なお、受講生の博士論文執筆計画、博士論文概要によっては、組織行動論に関連する部分の中間報告を行ってもらなどして、博士論文執筆の一助となるよう努めるつもりである。また、受講者の希望があれば、上記講義内容を一部変更し、講義で習得した知識を用いた現実の組織で行われている人間行動に関する事例分析を行ってもらう事も考えている。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

- ・授業内容について特に重要なキーワードの内容を理解すること。
- ・企業の事例について学習した理論を適用して理解すること。
- ・日ごろから新聞、ニュース等を通じて得た経営の現場での実践事例を「現代経営組織特論」で学ぶ内容や学んだ事と照らし合わせるなど、講義で学ぶ基本的な理論とその実践または応用について理解するよう意識すること。
- ・新聞報道、経済雑誌、ニュース報道等で得られる経営実践について「現代経営組織特論」の視点から問題意識を持つこと。
- ・身近な経営実践の現場において講義で学んだ内容との整合性を意識すること。

使用教材 ／ Teaching materials

メインテキストとして、スティーブン P.ロビンズ『【新版】組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社、2009.

副読本として、服部泰宏『組織行動論の考え方・使い方-良質のエビデンスを手にするために（第2版）』有斐閣,2023

成績評価の方法 ／ Grading

- ・報告レジュメ 50%
- ・毎回の講義での質疑応答、ディスカッションの内容 50%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

現代経営組織特論の講義内容について、
秀（100-90）：内容をほぼ完全に理解し、応用的かつ独創的な考察・批評が出来ており秀でている。

優（89-80）：内容をほぼ理解し、応用的な考察・批評が出来ており優れている。

良（79-70）：多くの内容を理解し、常識的な考察・批評ができています。

可（69-60）：基本的な知識を有し、間違った理解はしていない。
不可（59-0）：内容を理解していない、または誤った理解をしている。

履修上の注意事項 / Remarks

毎週、事前にしっかりと準備・予習をした上で講義に臨むこと。

科目名	現代企業組織法務特論／Corporate Law
担当教員	多木 誠一郎(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 組織マネジメント教育研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	水/Wed 6
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
	多木 誠一郎(4 3 5 号室 (1 号館) 電話 0 1 3 4 - 2 7 - 5 3 7 4
研究室番号	電子メール taki@res.otaru-uc.ac.jp (電子メールを送信する際には、連絡先電話番号の記載をお願いします))
オフィスアワー	多木 誠一郎(前期：水曜日 16 時 30 分 - 17 時 30 分 予約不要。上記時間帯以外でも質問歓迎。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

この授業を通じて会社法についての基本的事項である目的・株式・組織・運営・資金調達等について、高度専門職ないし研究職として必要とされる基礎的学力を身につけることを目的にします。

各回のテーマごとに受講生全員で議論するゼミナール形式で行います。受講生一人一人に担当箇所を決めて発表してもらい、それに対して発表者以外の受講生に質問をしてもらいます。担当箇所や授業の進度は受講生の関心・レベルに応じて、受講生と相談の上で決めます。

達成目標 ／ Course Goals

- ・会社とりわけ株式会社は経済合理性を究極まで追求しうる法形態です。私たちが知っている他の経済団体とどのような点で共通しており、反対にどのような点で異なるのかを説明できるようになること。
- ・なぜ共通しているのか、なぜ異なるのかを株式会社と他の経済団体の基本的特質と関連付けて説明できるようになること。
- ・わが国の経済団体では株式会社があらゆる面で圧倒的な存在です。ビジネスプランニングをするに際して株式会社が使いやすいからです。起業家にとってどのような点が好まれるのかを理由を挙げて説明できるようになること。

授業内容 ／ Course contents

会社とりわけ株式会社の目的・株式・組織・運営・資金調達等を下記の通り一通り取り上げる予定です。もっとも、受講生の関心に応じて柔軟に対応します。上記事項以外をテーマにして欲しい等（例えば非営利法人法、第一次産業と法、アグリビジネスと法、商取引と法、金融決済と法、会計・監査と法、アジア法）、何か特別の希望がある場合には、気軽にご相談下さい。

- ①会社とは
(予習課題) 会社の種類
(復習課題) 会社以外の経済団体
- ②株式会社の基礎
(予習課題) 所有と経営の分離
(復習課題) 経営者支配
- ③設立
(予習課題) 株式会社設立の状況 (統計)
(復習課題) 設立に関する責任
- ④株式
(予習課題) 株式自由譲渡の原則
(復習課題) 株式の譲渡制限
- ⑤株主総会
(予習課題) 機関分化
(復習課題) 総会の問題点
- ⑥取締役・取締役会
(予習課題) 取締役選任の現状
(復習課題) 取締役会の問題点
- ⑦監査役・監査役会・会計監査人
(予習課題) 監査役選任の現状
(復習課題) 監査役の問題点
- ⑧指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社
(予習課題) 委員会の導入状況
(復習課題) モニタリングモデル
- ⑨役員の責任
(予習課題) 著名事件
(復習課題) 責任追及の問題点
- ⑩会社の計算
(予習課題) 計算書類の確定までの手続
(復習課題) 分配可能額
- ⑪資金調達
(予習課題) 株式発行市場の現状 (統計)
(復習課題) 株式の発行手続

⑫組織再編

（予習課題）組織再編の種類

（復習課題）経済的機能からみた組織再編

⑬企業グループ

（予習課題）企業グループの現状

（復習課題）企業グループの管理

⑭企業形態の選択

（予習課題）ビジネスプランニングの選択肢

（復習課題）株式会社の長短所

⑮まとめ

（予習課題）疑問事項の取上げ

（復習課題）疑問事項に対する私見とりまとめ

・コツコツと地道に勉強していきましょう。

・法学の勉強をしたことがない方も履修可能です。

・受講生の希望があれば（受講生が複数いる場合には、受講生間で希望の一致があれば）、①札幌サテライトでの授業（一部）、②遠隔授業（一部）、③取り上げるテーマの変更等（上記「授業内容」参照）、柔軟に対応します。気軽にご相談下さい。

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

上記「授業内容」に記載の通り

使用教材 / Teaching materials

伊藤靖史ほか『会社法』（有斐閣、第6版、2025年＜予定＞）

神作裕之ほか編『会社法判例百選』（有斐閣、第4版、2021年）

最終的には受講生の関心・レベルに応じて、受講生と相談の上で決めますので、決めるまで購入しないでください。

成績評価の方法 / Grading

①授業への参加度 33.4%

②ホームワーク 33.3%

③試験ないしレポート 33.3%

成績評価の基準 / Grading Criteria

秀（100～90）：会社法について秀でた理解力を有し、会社法上の法的問題を解決する能力が秀でている。

優（89～80）：会社法について優れた理解力を有し、会社法上の法的問題を解決する能力が優れている。

良（79～70）：会社法について良好な理解力を有し、会社法上の法的問題を解決する能力が良好である。

可（69～60）：会社法について理解力を有し、会社法上の法的問題を解決する能力がある。

不可（59～0）：会社法についての理解力が不十分であり、会社法上の法的問題を解決する能力が不十分である。

履修上の注意事項 / Remarks

科目名	ビジネスと経済制度／Bussiness and Economic Institution
担当教員	江頭 進(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 組織マネジメント教育研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 6
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

この授業では、経済学と経営学（組織論）との接点を、制度という視点から考えることを目的としている。経済学と経営学は隣接領域を取り扱いながら、方法論が大きく異なるため、あまり積極的な交流が図られていなかった。しかし、近年成長してきた進化経済学では、組織の意思決定や行動の視点から、市場や産業、国民経済を描くための研究が盛んである。この授業では、その入り口として、ゲーム理論を用いた組織論の教科書であるミルグロム・ロバーツ著『組織の経済学』となぜ経済学と経営学の統合が必要なのかを考えるために西部・吉田編『進化経済学 基礎』をテキストとして、議論を行う予定である。

達成目標 ／ Course Goals

現代制度派経済学の組織論および現代進化経済学の基本的な考え方を理解し、基礎的なモデル構築できるようになることを目的とする。博士課程の院生は、本講義を博士論文の中で活用できるだけの知識を身に着ける必要がある。

授業内容 ／ Course contents

- 1 経済組織
- 2 コーディネーション:市場と組織
- 3 モティベーション:契約、情報とインセンティブ
- 4 効率的なインセンティブの提供:契約と所有
- 5 雇用:契約、報酬、キャリア
- 6 資金調達:投資、資本構成、コーポレート・コントロール
- 7 組織のデザインとダイナミックス
- 8 進化経済学とは何か？
- 9 モデルと相性問題

- 10 進化経済学から見えてくる世界
- 11 基礎概念
- 12 進化経済学のモデル
- 13 進化経済学の対象
- 14 進化経済学と政策
- 15 まとめ

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

- | | | | |
|-------------|----------------------------|------|--------|
| 第 1 回 事前学修 | 『組織の経済学』第 1 章と第 2 章の報告準備 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 2 回 事前学修 | 『組織の経済学』第 3 章と第 4 章の報告準備 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 3 回 事前学修 | 『組織の経済学』第 5 章と第 6 章の報告準備 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 4 回 事前学修 | 『組織の経済学』第 7 章と第 8 章の報告準備 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 5 回 事前学修 | 『組織の経済学』第 9 章と第 10 章の報告準備 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 6 回 事前学修 | 『組織の経済学』第 11 章と第 12 章の報告準備 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 7 回 事前学修 | 『組織の経済学』第 13 章と第 14 章の報告準備 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 8 回 事前学修 | 『進化経済学 基礎』第 1 章 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 9 回 事前学修 | 『進化経済学 基礎』第 2 章 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 10 回 事前学修 | 『進化経済学 基礎』第 3 章 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 11 回 事前学修 | 『進化経済学 基礎』第 4 章 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 12 回 事前学修 | 『進化経済学 基礎』第 5 章 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 13 回 事前学修 | 『進化経済学 基礎』第 6 章 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 14 回 事前学修 | 『進化経済学 基礎』第 7 章 | 事後学修 | 授業の復習 |
| 第 15 回 事前学修 | 講義中に指定 | 事後学修 | 講義中に指定 |

使用教材 ／ Teaching materials

1. 西部忠・吉田雅明編『進化経済学 基礎』、日本経済評論社。
2. ミルグロム・ロバーツ『組織の経済学』、NTT 出版。

成績評価の方法 ／ Grading

評価の要素 ウェイト

出席率 0%

授業への参加度（事例、討論、調査） 50%

ホームワーク（事前課題の提出）20%

小テストないしクイズ 30%
試験ないしプレゼンテーション（最終課題）0%

成績評価の基準 / Grading Criteria

経済学科の基準に従う。

履修上の注意事項 / Remarks

中級ミクロ経済学およびゲーム理論を理解していること。

科目名	労務管理特論／Human Resource Management and Labor Relations
担当教員	金 鎔基(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 組織マネジメント教育研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業では、まず人材管理の基本理論と、いわば日本的雇用慣行にかかわる主なイシューを総括したうえで、日本企業にとって近年のホットな課題とされるグローバル人材マネジメント（ビジネスのグローバル化に対応した人材マネジメント）、ダイバーシティ・マネジメント（女性雇用など労働力の多様化、雇用形態の多様化に対応した人材マネジメント）、組織活性化とイノベーションに関わる諸問題（心理的安全性、OKRなど）の現状と課題を分析的に検討する。具体的なテーマに沿って最新の研究成果を検討することによって、人的資源管理の各領域に対する理解を深めるとともに、実証分析の多様な方法に馴染むことが目的である。

達成目標 ／ Course Goals

人材管理の基本理論を一通り整理する。
雇用慣行の国際比較、日本の特徴をめぐる諸論点を要約できる。
ダイバーシティ・マネジメントの総論と各論ごとに近年の研究動向を理解する。
グローバル人材市場における日本企業の立ち位置と課題を理解する。
組織活性化とイノベーション促進にむけた主要論点を理解する。
人材管理分野の実証方法や基礎データの概要を理解する。

授業内容 ／ Course contents

1. HRMのパラダイム転換（内部化からダイバーシティへ）
2. 内部労働市場型のキャリア（小池1～3章）
3. 長期雇用と年功賃金（小池4～6章）
4. 女性雇用・キャリアの諸問題（小池8章、その他指定テキスト）
5. 高齢者雇用（小池9章、その他指定テキスト）
6. 現地化とグローバル統合（古沢の序章～2章）

7. 日系企業の現地化問題（古沢3～5章）
8. グローバル人材マネジメントの国際比較（古沢6～7章）
9. 日本企業の留学生採用と人材管理（指定テキスト）
10. 日本企業のグローバル人材マネジメント1
11. 日本企業のグローバル人材マネジメント2
12. 心理的安全性とイノベーション1
13. 心理的安全性とイノベーション2
14. 心理的安全性と仕事マネジメント（OKRなど）
15. ダイバーシティ・マネジメントと組織活性化

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

- ①受講者は事前にテキストを熟読し、毎回要約レジュメを作成し発表（10分）する。受講者が複数の場合は輪番で担当する。
- ②事前熟読の際は、難解な用語のチェック（ネット検索など）、内容に関する質問とコメントをメモしておき授業にのぞむ。
- ③毎回授業の終盤に、受講者各自の研究関心に沿って、授業内容からの示唆や論点をめぐるディスカッションを行う。授業終了後、その内容をショットレポートにまとめ次回に提出する。

使用教材 ／ Teaching materials

小池和男『仕事の経済学』第3版（東洋経済新報社、2005年）
村上由紀子『人材の国際移動とイノベーション』（NTT出版、2015年）
古沢昌之『グローバル人的資源管理論』（白桃書房、2008年）
桑名義靖ほか『グローバルHRM：日本企業の挑戦』（中央経済社、2019年）
エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織』（英治出版、2021年）
その他指定テキストについては、オリエンテーションのときに知らせる。

成績評価の方法 ／ Grading

授業参加度 20%
レジュメ作成と発表 30%
授業中の質問とディスカッション貢献度 30%
ショットレポート 20%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀（100～90）：個々のテーマについての理解力及び応用力に加え、テーマ間の相互関連が理解でき、現実問題への総合的アプローチができる。
優（89～80）：個々のテーマについての理解力及び応用力に加え、テーマ間の相互関連が理解できる。
良（79～70）：個々のテーマについて良い理解力及び応用力を有している。
可（69～60）：個々のテーマについて理解力及び応用力を有している。

不可（５９～０）：個々のテーマについて十分な理解力又は応用力を有していない。

履修上の注意事項 / Remarks

受講者数が少ない場合は、受講者の研究関心を反映して授業内容を多少変更することもありうる。また英語による授業を望む受講者に対応できる場合もあるので、メールによる事前相談が望ましい。

Taking this class in English is available sometimes. Feel free to contact me by e-mail.
<kim@res.otaru-uc.ac.jp>

科目名	産業集積特論／Industrial Agglomeration
担当教員	林 松国(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 組織マネジメント教育研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	金/Fri 4
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 / Course Objectives and method

目的：産業集積とは特定地域に関連性のある多数の企業が集積することであり、産業集積論の系譜の原典である Marshall (1920) ではその経済性について、企業間における社会的分業が形成されるがゆえに相互依存や競争の関係が強まり、そのもとで産業集積全体として外部変化への対応能力が存在すると指摘されている。他方、近年ではソフトウェア産業集積といったハイテク型の新しい産業集積について、集積内立地企業間の競争と協調を通じたイノベーションの創出効果に関心が集まっている。本授業では、このような新しい産業集積を対象に、「既存の産業集積」の経済性と比較しながら、実践コミュニティの概念を導入し、集積形成のプロセスを詳細に考察することで、ハイテク型産業集積の経済性とイノベーション創出の拠点となった本質を理論的、実証的に考察する。

方法：テキストの事前精読、レジュメ・コメント作成、ディスカッションによる問題・論点の理解の深化、検討の整理および思考の定着化。

達成目標 / Course Goals

産業集積の理論についての理解を深め、そのうえで、ハイテク型産業集積の経済性とイノベーション創出機能について分析できるようになる。

授業内容 / Course contents

- 産業集積とは何か？
予習課題と復習課題は授業中に指示する。
- 産業集積の経済性
予習課題と復習課題は授業中に指示する。
- シリコンバレー①
予習課題:指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化

- シリコンバレー②
予習課題：指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化
- シリコンバレー③
予習課題：指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化
- シリコンバレー④
予習課題：指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化
- シリコンバレー⑤
予習課題：指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化
- 新しい産業集積とスピノフ・ベンチャー
予習課題：指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化
- スピノフ企業家の学習コミュニティ
予習課題：指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化
- 浜松地域のソフトウェア集積とスピノフ連鎖の実態
予習課題:指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化
- 札幌地域のソフトウェア集積とスピノフ連鎖の実態①
予習課題：指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化
- 札幌地域のソフトウェア集積とスピノフ連鎖の実態②
予習課題：指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化
- 浜松地域の光電子集積とスピノフ連鎖の実態
予習課題：指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化
- 中国北京中関村ソフトウェア集積とスピノフ連鎖の実態
予習課題：指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化
- 産業集積事例の比較分析
予習課題：指定教材の該当箇所の精読
復習課題：学習内容の整理・定着化

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

授業内容に書かれている通りである。

使用教材 / Teaching materials

テキスト：

①アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社

②長山宗広（2012）『日本のスピノフ・ベンチャー創出論：新しい産業集積と実践コミュニティを事例とする実証研究』同友館

参考文献：

①渡辺幸男（2011）『現代日本の産業集積研究：実態調査研究と論理的含意』慶応義塾大学出版会

②『中小企業白書』各年

プリント：

随時配布

成績評価の方法 / Grading

授業への参加度（事例、討論、調査）：60%

ホームワーク（事前課題の提出）：10%

試験ないしプレゼンテーション（最終課題）：30%

成績評価の基準 / Grading Criteria

秀（100～90）：個々の科目について秀でた理解力及び応用力を有している

優（89～80）：個々の科目について優れた理解力及び応用力を有している

良（79～70）：個々の科目について良い理解力及び応用力を有している

可（69～60）：個々の科目について理解力及び応用力を有している

不可（59～0）：個々の科目について十分な理解力又は応用力を有していない

履修上の注意事項 / Remarks

当講義では、講義中の積極的な発言、議論を求める。

教科書を輪読する方法をとるが、受講者が作成する発表内容及びレジュメが単なる教科書の要約であると判断される場合、成績評価対象から除外する。与えられた課題内容を自分なりに読み解き、解釈、考察することで、発表のポイントを明確にする、あるいは課題から新しいテーマをフロアーに提起することを求める。

科目名	現代財務会計情報特論／Topics in Modern Financial Accounting Information
担当教員	石川 業(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 企業情報戦略教育研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	金/Fri 5
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	石川 業(事前にメール連絡をいただき、個別に場所を調整します。)
オフィスアワー	石川 業(事前にメール連絡をいただき、個別に時間を調整します。)

授業の目的・方法 / Course Objectives and method

この授業の目的は、財務分析の応用を意識しつつ、あらためてその基礎をきちんと固め直すことです。

財務分析のメリットの1つは、(一見して) 明確な指標にもとづき企業の状況を端的に把握できることです。ただ、その指標を構成する会計数値の意味内容は、必ずしも簡潔ではない場合もあり、指標についての誤った計算や理解も世間では散見されます。したがって、応用的な財務分析へと進む前に、特定の指標を構成する項目について、その認識・測定のレベルから理解を深めておくことが有用です。

授業の方法は、演習形式(ゼミ形式)とします。より具体的には、定評のあるテキストを題材に毎週の予習範囲を決め、その内容を対象として授業当日にディスカッションを行います。

なお第15回の講義では、この授業で学んだことを、関心のある分析対象に適用してみた結果をご報告いただきます。

達成目標 / Course Goals

上記の目的を念頭に、以下のことを達成目標とします。

1. 財務分析で用いる情報(源)を、あらためて確認する。
2. 財務諸表を含めた、上記1の情報(源)の内容をよりの確に理解したうえで、代表的な指標についての理解を深める。
3. 技術的またはハウツー的というよりも、学術的な財務分析の解説にふれる。
4. 財務分析から企業価値評価へと展開するための、基礎的な知識を得る。
5. この授業で学んだことを、関心のある分析対象に適用してみる。

授業内容 / Course contents

1. イントロダクション、財務諸表分析の基礎
2. 連結財務諸表の見方
3. 貸借対照表データによる安全性分析
4. 損益計算書データによる収益性分析
5. 収益性分析―投下資本と利益の組み合わせ―
6. 効率性分析と資金循環スピード
7. キャッシュ・フロー計算書データによる分析
8. 貨幣の時間的価値と割引計算―補説―、ここまでの振り返り
9. 損益分岐点分析
10. 成長性分析と業績予想情報
11. 付加価値生産性と価値創造
12. 株価関連指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価
13. 会計利益に基づく株式価値評価
14. 利益マネジメントと財務諸表分析
15. この講義の振り返り

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

この授業の究極的な目的・目標は、上でふれたように、自ら会計数値等を確認しながらの適切かつ応用的な財務分析を、それぞれの必要に応じて成し遂げられるようになってもらうことです。

その目的・目標に照らして、毎回の授業の予習に加え次のことを【事前学修】として期待します。

- ・どういう企業に魅力を感じるか、それはなぜか、その企業を取り巻く環境はどのようなか、業績はどうなっていると推定できるか...といった、特定の企業についての事前のイメージを、できるかぎり明確にしてくる(そのためには、日常的な「アンテナ」の張り方と、それによって得た情報のふまえ方、そして、それらを支配する自分自身の個性・関心・好みのあり方を、広く意識していく必要があります)。
- また、授業のあとには、復習に加えて次のことを【事後学修】として期待します。
- ・これまで得てきたほかの専門科目の知識も総動員しつつ、会計数値に目をとすことができるようになっていくか否かを確認すること(会計の理解は、経済全体や企業経営に関連する他分野についての理解があってこそ、いっそう深まります)。
- ・ゼミを履修する前の自分と比べて、特定の企業に対する見方が変わっているか否かを、その理由とあわせて確認すること(将来の自分の「居場所」までイメージしながら確認できると、より望ましいです)。

使用教材 / Teaching materials

既読でなければ、次のテキストを教材として使用します。

乙政正太著『財務諸表分析(第4版)』同文館出版、2024年。

既読であれば、別の教材を使用します。この科目の履修をご検討いただいているかたは、その旨を前もって担当教員にメールでお知らせください。

上記のテキストを使用する場合、その第1章を、第1回の授業の題材とします（「授業内容」の欄を参照）。前もってテキストを購入し、予習をしたうえでご出席ください。

なお、ご出席に際しては、疑問等をまとめた用紙をご持参いただけると助かります（書式は特段、問いません）。

成績評価の方法 / Grading

満点を100点として、下記の配点により評価します。

- ・40点：授業前の予習の精度【テキストを的確・丁寧に精読できるか否かが問われます】
- ・40点：授業時のディスカッションへの貢献度【予習にもとづいて、また、その場の着想にもとづいて、積極的および的確なディスカッションを展開できるか否かが問われます】
- ・20点：財務分析の実践【第15回の講義において、この授業で学んだことを関心のある分析対象に適用してみた結果について、ご報告いただきます】

成績評価の基準 / Grading Criteria

秀（100-90）：現代における財務会計情報の使い方について、秀でた理解力及び応用力を有している。

優（89-80）：現代における財務会計情報の使い方について、優れた理解力及び応用力を有している。

良（79-70）：現代における財務会計情報の使い方について、良い理解力及び応用力を有している。

可（69-60）：現代における財務会計情報の使い方について、理解力及び応用力を有している。

不可（59-0）：現代における財務会計情報の使い方について、十分な理解力及び応用力を有していない。

履修上の注意事項 / Remarks

この授業の内容は、少なくとも学部レベルの簿記・会計関連科目の履修済みを前提としています。必要となる基礎や土台なしに、なんとなく履修しても意義を大きくできる、というタイプの授業ではありません。

「使用教材」の欄でもお伝えしているとおり、この科目の履修をご検討いただいているかたは、その旨を前もって担当教員にメールでお知らせください。

科目名	現代管理会計情報特論／Management Accounting
担当教員	乙政 佐吉(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 企業情報戦略教育研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	木/Thu 2
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本科目の目的は、管理会計の諸概念と企業経営における管理会計情報の利用方法について学ぶとともに、管理会計研究の全体像を把握することである。高度専門職としてのコンサルタントおよび教育研究者の育成を想定している。

前半には、管理会計の発展過程を通じて伝統的管理会計と戦略的管理会計について学習する。後半においては、管理会計を研究するにあたってどのようなアプローチがあるのかについて検討する。授業は基本的に、事前に準備してもらった予習課題について報告をしてもらった上で、報告内容に関して議論をするという形で進めていく。

達成目標 ／ Course Goals

達成目標として、次の三点を挙げる。

- ・管理会計研究を進めていく上での学術的基礎を身につける。
- ・管理会計の諸技法や諸理論について自主的に研究を進めることができるようになる。
- ・研究テーマに即した研究方法論を採用・実施できるようになる。

授業内容 ／ Course contents

- (1)イントロダクション
- (2)管理会計の基礎概念と原価概念
- (3)管理会計の発展（１）
- (4)管理会計の発展（２）
- (5)インターラクティブ・コントロール
- (6)ABC/ABM
- (7)品質原価計算
- (8)原価企画
- (9)BSC

- (10)情報経済学アプローチ
- (11)行動科学アプローチ
- (12)コンティンジェンシー・アプローチ
- (13)影響アプローチ
- (14)管理会計システムの導入研究
- (15)管理会計の研究動向

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

本講義の目的を達成するために、毎回、予習課題および復習課題をこなす必要がある。予習および復習課題についてはイントロダクション時に示す。以下の点に留意しながら課題に取り組むこと。

- ・わからない語彙等は必ず調べておくこと。
- ・自らの経験に照らしながらテキストの理解に努めること。
- ・興味をもった技法や理論に関しては自ら関連論文を検索すること。

使用教材 ／ Teaching materials

詳細はイントロダクション時に示す。

溝口一雄編著 (1987) 『管理会計の基礎』 中央経済社。

Simons, R. (1995), Lever of Control, Boston, Mass: Harvard Business School Press.

Kaplan, R. S. and D. P. Norton (2001), The Strategy-Focused Organization: How Balanced Scorecard Companies Thrive in the New Business Environment , Boston, MA : Harvard School Press.

成績評価の方法 ／ Grading

授業への参加度（事例、討論、調査）：50％

ホームワーク（事前・事後課題の提出）：50％

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀（100～90）：

管理会計について秀でた理解力を示し、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について秀でた分析をすることができる。

優（89～80）：

管理会計について優れた理解力を示し、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について優れた分析をすることができる。

良（79～70）：

管理会計について基本的な理解力を示し、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について分析をすることができる。

可（69～60）：

管理会計について基本的な理解力を示すものの、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について分析をすることができない。

不可（59～0）：
管理会計について十分な理解力を持たず、管理会計を研究するためのアプローチを
応用して、経営管理上の現象について分析をすることができない。

履修上の注意事項 / Remarks

使用教材に関して、海外ジャーナル（論文）および既に絶版となっている文献に関し
てはコピーを配付する。それ以外の文献については購入が必要である。
ただし、シラバスの内容は変更する場合がある。詳しくはイントロダクションの際に
説明する。

科目名	情報技術特論／Information Technology Theory
担当教員	沼澤 政信(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 企業情報戦略教育研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	沼澤 政信(4 号館 451 室)
オフィスアワー	沼澤 政信(事前にメールで連絡をしてください。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業は、情報技術の一つである Web 技術について、深い知識を有し、教育・研究およびビジネス分野の各種問題に応用する能力を身につけることを目的とします。現在の高度情報化社会を支える情報技術の一つに Web 技術があります。半構造的な知識ベースにより情報を表現してネットワークに蓄積する、API 等を利用してソフトウェア資産を共有するなど、Web 技術はインターネットサービスやシステムにおいてデータ連係やデータ通信の中心的な技術である。そのような現状を踏まえ、本授業では、ネットワークの知識、Web 技術の知識および Web アプリケーションと Web セキュリティの知識について学びます。

達成目標 ／ Course Goals

本授業の履修を通して獲得が期待される能力・技能は以下の通りです。

- ・知識ソフトウェア、ネットワークの基礎知識を確認して理解できます。
- ・Web 技術の基礎知識を理解できます。
- ・Web アプリケーションの基礎知識を理解できます。
- ・Web セキュリティの基礎知識を理解できます。

授業内容 ／ Course contents

以下の 15 回の内容に応じて各履修者に予習、プレゼンテーション＆質疑応答を行ってもらいます。

- 概説 (1 回)：ガイダンス、知識ソフトウェア
- ネットワークの知識 (2 回)：TCP/IP、IP アドレス、DNS 等
- Web 技術(1) (3 回)：HTTP、HTTPS、CGI、JavaScript、DOM
- Web 技術(2) (3 回)：Servlet、JSP、フレームワーク
- Web アプリケーション (3 回)：Web プログラミング、Web API、マッシュアップ
- Web セキュリティ (3 回)：ファイアーウォール、暗号化等

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修として、今回の授業内容に記載された語句について、各自で情報系の書籍や雑誌、ウェブ記事等で調べることを期待します。また、事後学修では、講義資料や参考資料の内容を確認し、復習してください。授業の中で特に関心を持った事項については各自で積極的に調べて、より深い知識を得るように努めてください。

使用教材 ／ Teaching materials

- 教科書は指定しません。
- プレゼン資料作成のための参考文献は授業内で示します。

成績評価の方法 ／ Grading

下記の評価要素とウェイトにより、総合的に本授業の評価を行います。

- 授業への参加度（予習、プレゼンテーション、質疑応答）：50%
- レポート（最終課題）：50%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

社会情報コース標準成績評価基準に従います。

履修上の注意事項 ／ Remarks

- 授業方法、受講に関しての諸注意や評価方法の詳細などは、第一回講義日に簡単に説明します。
- プログラミングおよびコンピューターネットワークに関する講義を学部で履修していることが望ましい（ただし、履修条件ではありません）。

科目名	ビジネスのための経済分析／Economic Anarysis for Business
担当教員	佐野 博之(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 現代ビジネスの理論と制度教育 研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	佐野 博之(436)
オフィスアワー	佐野 博之(初回の授業でお知らせします。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

ビジネスのための経済分析では、ミクロ経済分析の基礎から応用までを学びます。まず、消費者と企業の行動に関するミクロ経済モデルを学び、様々な事例を交えながら市場のメカニズムに対する理解を深めることを目的とします。

授業は受講者によるテキストの内容の報告（プレゼンテーション）およびディスカッション形式で進められ、毎回復習課題として与えられたテキストの練習問題の解答を次の回に報告してもらいます。

達成目標 ／ Course Goals

不確実性下の経済・経営環境への応用分析を学ぶことで、ビジネスの場で現実に直面する諸問題に対して、ミクロ経済分析を応用できるようになることが最終目標です。

授業内容 ／ Course contents

- 1 ミクロ経済学の基本解説
テキスト 第1章
課題：テキスト 練習問題 1, 2
- 2 需要と供給の基本原理解
テキスト 第2章 2.1~2.4
課題：テキスト 練習問題 1, 2, 3, 4, 5
- 3 需要と供給の基本原理解
テキスト 第2章 2.5~2.7
課題：テキスト 練習問題 6, 8, 11
- 4 消費者行動

テキスト 第3章 3.1~3.3

課題：テキスト 練習問題 2, 5, 7, 12

5 消費者行動

テキスト 第3章 3.4~3.6

課題：テキスト 練習問題 14, 15, 16

6 個別需要と市場需要

テキスト 第4章 4.1~4.3

課題：テキスト 練習問題 1, 2, 4, 6, 10

7 個別需要と市場需要

テキスト 第4章 4.4~4.6

課題：テキスト 練習問題 12, 15

8 不確実性と消費者行動

テキスト 第5章 5.1~5.3

課題：テキスト 練習問題 1, 3, 4, 6

9 不確実性と消費者行動

テキスト 第5章 5.4~5.5

課題：テキスト 練習問題 7, 8, 9, 11

10 生産

テキスト 第6章

課題：テキスト 練習問題 3, 5, 8, 10

11 生産費用

テキスト 第7章 7.1~7.3

課題：テキスト 練習問題 2, 4, 8, 9

12 生産費用

テキスト 第7章 7.4~7.7

課題：テキスト 練習問題 11, 13, 14

13 利潤最大化と競争市場における供給

テキスト 第8章 8.1~8.6

課題：テキスト 練習問題 5, 7, 8

14 利潤最大化と競争市場における供給

テキスト 第8章 8.7~8.8

課題：テキスト 練習問題 11, 14, 15

15 競争市場の分析

テキスト 第9章

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

<事前学修>

毎回、上記の授業内容で指定したテキストの範囲を事前に精読し、プレゼンテーションの準備をする。

<事後学修>

上記の授業内容の課題で指定した練習問題を解答する。さらに、次回の授業で解答を報告する。

使用教材 / Teaching materials

ロバート・Ｓ・ピンダイク，ダニエル・Ｌ・ルビンフェルド（2014）『ピンダイク＆ルビンフェルド ミクロ経済学I』，姉川知史監訳，KADOKAWA.

成績評価の方法 / Grading

以下の要素を勘案して評価します。

- ・プレゼンテーションおよびディスカッション 60%
- ・ホームワーク（課題の提出） 40%

成績評価の基準 / Grading Criteria

秀（100～90）：ミクロ経済分析について秀でた理解力を示し，それを応用して，経済および経営の諸問題について秀でた分析をすることができる。

優（89～80）：ミクロ経済分析について優れた理解力を示し，それを応用して，経済および経営の諸問題について優れた分析をすることができる。

良（79～70）：ミクロ経済分析について良い理解力を示し，それを応用して，経済および経営の諸問題について良い分析をすることができる。

可（69～60）：ミクロ経済分析について理解力を示し，それを応用して，経済および経営の諸問題について分析をすることができる。

不可（59～0）：ミクロ経済分析について十分な理解力を持たず，それを応用して，経済および経営の諸問題について分析をすることができない。

履修上の注意事項 / Remarks

学部レベルのミクロ経済学の基礎を理解していること。

科目名	ビジネス法務特論／Business Law
担当教員	小林 友彦(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 現代ビジネスの理論と制度教育 研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	月/Mon 6
配当年次	2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	小林 友彦(1 号館 523 号室)
オフィスアワー	小林 友彦(木曜日 13:00-14:00 金曜日 12:00-13:00)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

各履修者の専門分野において、国際ビジネスに関連する法的論点がどのように影響するか検討する機会を提供するのが、本科目の目的である。

達成目標 ／ Course Goals

履修者が各自の研究内容に関連した法律的論点について検討することを通して、各自の専門研究に活かすための複眼的視点を身に着けることが本科目の達成目標である。

授業内容 ／ Course contents

履修者が専攻する分野に関連する法的課題について、履修者が自ら関心のあるテーマについて問題提起し、それに対して担当教員が解説したり共同して検討したりすることを通して理解を深める。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修：各自の専門分野における関心事項のうち、知財侵害・AI 規制・個人データ保護・広告規制など、ビジネス法務上の課題としても現れうるものを調べる。
事後学修：授業で検討した法的分析について、各自の専門とする法学分野における今後の研究においてどのように役立つか整理する。

使用教材 ／ Teaching materials

履修者と相談して決定する。

成績評価の方法 ／ Grading

授業参加度（70％）、小テストまたはレポート（30％）で成績評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀（100～90）：国際経済法について秀でた理解力を示し、関連する問題について秀でた分析をすることができる。
優（89～80）：国際経済法について優れた理解力を示し、関連する問題について優れた分析をすることができる。
良（79～70）：国際経済法について良い理解力を示し、関連する問題について良い分析をすることができる。
可（69～60）：国際経済法について理解力を示し、関連する問題について最低限の分析をすることができる。
不可（59～0）：国際経済法について十分な理解力を持たず、関連する問題について最低限の分析をもすることができない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

法学の素養がなくても、履修にあたって不利にはなりません。
開講する曜日や時間帯、教室の場所（小樽か札幌か）については、相談に応じます。

科目名	ビジネスにおける情報活用特論／Topics in Information Management in Business
担当教員	平沢 尚毅(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 現代ビジネスの理論と制度教育 研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	月/Mon 1
配当年次	2 年 /3 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

現代のビジネスにおける情報活用は、従来のように、効率的に情報を管理運用するだけでは、創発的な価値を組織にもたらすことはできない。組織における情報の意味づけまで遡って、情報を再構築することによって、初めて新たな価値を創出する仕組みを構築できる。

本講義では、もの作りやサービス設計に応用するために、戦略的に情報を収集し、顧客やユーザの立場から再構成しながら可視化し、さらに、これを検証しながら、新たな提案を創出するまでの方法について学習を進める。

達成目標 ／ Course Goals

本講義を通して、顧客やユーザの立場からもの作りやサービス設計を実施するために、戦略的に情報を収集し、再構成し、新たな提案を創出するまでの方法を学ぶ。

授業内容 ／ Course contents

第1回 情報通信技術の経営システムへの影響

情報通信システムが経営システムへ与える影響について、業務の効率化の観点から考察する。

予習課題：経営情報システムの歴史を調査する。

復習課題：経営情報システムの事例を調査する。

第2～3回 情報通信技術によって生まれた新たなシステム

(1) 2000 年以降の情報通信技術と特徴と傾向を理解する。

(2) これらの情報通信技術によって生まれた、新たな業務の背景と今後の展望を考察する。

予習課題：2000 年以降の情報通信技術によって生じた新たな業務システムを調査する。

復習課題：新たな業務システムの事例を調査する。

第4～5回 情報通信技術によって変化した顧客との関係

(1) 情報通信技術の発展と、そのステークホルダの変移を概観する。

(2) 情報通信技術の発展共に、顧客の位置づけがどのように変移したきたかを理解する。

予習課題：経営情報システムの中で、顧客に関わるシステムについて調査する。

復習課題：顧客マネジメントシステムの事例を調査する。

第6～7回 開発システムーシステムライフサイクルプロセスについて

(1) 情報通信技術を応用した製品／システム／サービスのライフサイクルプロセスについて理解する。

(2) 顧客を中心に考えたライフサイクルプロセスについて考察する。

予習課題：システムライフサイクルプロセスについて調査する。

復習課題：製品／システム／サービスのライフサイクルプロセスの事例を調査する。

第8回 開発戦略

情報通信技術を応用した製品／システム／サービス開発のための戦略の考え方を考察する。

予習課題：戦略立案に関する基本的な考え方を調査する。

復習課題：製品／システム／サービスを想定した開発戦略を立案する。

第9～10回 企画・構想

(1) 情報通信技術を基盤にした、一般的な企画・構想のプロセスを理解する。

(2) を応用した製品／システム／サービスの企画・構想の考え方を考察する。

予習課題：製品／システム／サービスの企画・構想の立案方法を調査する。

復習課題：想定した製品／システム／サービスの企画・構想を立案する。

第11～13回 要求事項定義

(1) 製品／システム／サービスの要求事項定義の概念について理解する。

(2) ステークホルダ要求事項定義を理解し、方法を学ぶ。

(3) 製品／システム／サービスの要求事項定義を理解し、方法を学ぶ。

予習課題：製品／システム／サービスの要求分析定義方法を調査する。

復習課題：想定した製品／システム／サービスの要求分析定義を実施する。

第14回 インタラクション設計

情報通信技術を応用した製品／システム／サービスの利用者とのインタラクションを設計するための方法を習得する。

予習課題：製品／システム／サービスのインタラクション設計方法を調査する。

復習課題：想定した製品／システム／サービスのインタラクションを設計する。

第15回 評価

情報通信技術を応用した製品／システム／サービスの要求仕様を評価するための方法を習得する。

予習課題：製品／システム／サービスを評価するための方法を調査する。

復習課題：想定した製品／システム／サービスを評価する。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

開発プロセス全体を理解するために、特定のシステム／ソフトウェア／サービスの開発プロセスを理解していること。可能であれば、開発経験があることが望ましい。

また、講義にあたって、次の基本的な概念を理解しておくこと。

- ・ユーザエクスペリエンス
- ・アクセシビリティ
- ・ユーザビリティ

使用教材 ／ Teaching materials

テキスト等は、必要に応じて配布する。基本的にはパワーポイントを利用して講義をする。場合によっては、実験室を利用することがある。

成績評価の方法 ／ Grading

授業への参加度（事例、討論、調査） 20 %

ホームワーク（事前課題の提出） 40 %

試験ないしプレゼンテーション（最終課題） 40 %

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

学部社会情報学科科目と同じ基準を用いる。

秀（100～90）：当該科目について秀でた理解力、及び応用力を有している。

優（89～80）：当該科目について優れた理解力、及び応用力を有している。

良（79～70）：当該科目について良い理解力、及び応用力を有している。

可（69～60）：当該科目について理解力、及び応用力を有している。

不可（59～0）：当該科目について十分な理解力、又は応用力を有していない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

情報処理センターを利用する場合があるので、事前に利用申請を済ませておくこと。

科目名	保険とリスク／Insurance and Risk
担当教員	中浜 隆(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 現代ビジネスの理論と制度教育 研究分野
開講学期	2025 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	月/Mon 3
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

授業の目的：

現代のビジネスと生活（企業と家計）にとって不可欠な保険システムの機能と保険業の役割を理論面・実証面から学習し、現代のビジネス活動と国民生活に必然的に付随し、複雑化・多様化するリスクに対して保険システムと保険業が果たす機能・役割と課題を習得することを目的とします。

授業の方法：

当授業は日本語で行います。また、履修者は少数なので、ゼミ形式（報告と討論）で行います。なお、履修者は少数なので、履修者の関心・研究内容に応じて、下記の「3. 授業内容」と「5. 使用教材」については変更します。

達成目標 ／ Course Goals

- ・保険理論に対する理解力と応用力を高める。
- ・保険システムと保険業についてレベルの高い分析ができるようになる。

授業内容 ／ Course contents

第1回、第2回 保険の経済理論

事前学修：教材の第3章の予習

事後学修：論点の整理と要約

第3回、第4回 保険の構造

事前学修：教材の第4章の予習

事後学修：論点の整理と要約

第5回、第6回 保険とリスク・マネジメント

事前学修：教材の第5章の予習

事後学修：論点の整理と要約

第7回、第8回 保険金融と金融リスク管理

事前学修：教材の第6章の予習

事後学修：論点の整理と要約

第9回、第10回 保険事業と保険経営

事前学修：教材の第8章の予習

事後学修：論点の整理と要約

第11回、第12回 保険産業と保険市場

事前学修：教材の第9章の予習

事後学修：論点の整理と要約

第13回、第14回 保険政策と保険規制

事前課題：教材の第10章の予習

事後学修：論点の整理と要約

第15回 まとめ（全体討論）

事前学修：第1回～第14回の授業の復習

事後学修：論点の整理と要約

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

上記の「授業内容」の項目で、各回の授業の「事前学修」と「事後学修」を記載しています。

使用教材 ／ Teaching materials

堀田一吉・中浜 隆（編）『現代保険学』有斐閣、2023 年

ISBN 978-4-641-18468-8

成績評価の方法 ／ Grading

成績は、下記の「評価の要素」と「ウェイト」に基づいて評価します。

評価の要素 ウェイト

・授業への参加度（討論） 50%

・期末試験 50%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

・秀（90点以上）：保険理論に対して秀でた理解力と応用力を示し、保険システムと保険業について秀でた分析をすることができる。

・優（80点～89点）：保険理論に対して優れた理解力と応用力を示し、保険システムと保険業について優れた分析をすることができる。

・良（70点～79点）：保険理論に対して良い理解力と応用力を示し、保険システムと保険業について良い分析をすることができる。

・可（60点～69点）：保険理論に対して理解力と応用力を示し、保険システムと保険

業について分析をすることができる。

- ・不可（59 点以下）：保険理論に対して理解力と応用力を示しておらず、保険システムと保険業について分析をすることができない。

履修上の注意事項 / Remarks